

A330-800、型式証明を取得



EASA と FAA から同時に型式証明を取得した A330-800

最新長距離ワイドボディ機の A330-800 が欧州航空安全庁（EASA）と米連邦航空局（FAA）より型式証明を取得しました。型式証明の飛行テストプログラムを実施した A330-800 MSN1888 は、2018 年 11 月の初飛行から飛行回数 132 回、370 時間の飛行テストを完了しました。

A330-800 は新世代機 A330neo ファミリーの 1 機種です。最も効率的な長距離ワイドボディ機で、ロールス・ロイス社製「Trent 7000」エンジンを

装備します。最適化した主翼と軽量の複合材を使用したシャークレットを備えます。これにより、同サイズの旧世代競合機と比べ、燃費を 25% 大幅に削減します。

航続距離 7,500 海里、最大離陸重量 242 トンで型式証明を取得した A330-800 は、標準で 3 クラス制の 220 席から 260 席を装備します。モノクラス仕様では 406 席を装備します。これまでに A330neo ファミリー全体で 22 社から 337 機の受注を獲得しています。

A330-800 は受賞デザインの革新的客室 Airspace を装備し、最高レベルの快適性を提供します。大型の頭上荷物棚、最先端ムードライティングを備え、最新機内エンターテインメントシステム、ネット接続環境を完備します。A330neo ファミリーはより大型の A350 XWB と共通タイプレーティングを備え、訓練コストを最小限に抑え、パイロットの生産性を最大化します。

また、整備において、「スカイワイズ」を活用して不具合などの事前予測を補助し、生産性を最大限確保することが可能です。

contents

A330-800、型式証明を取得

シンガポール航空ショーに出展

A220 プログラムの持株比率を引き上げ

スイス インターナショナル エアラインズの A320neo 初号機を納入

セントレアの第 4 回航空ファンミーティングに参加

グリーン・アフリカ・エアウェイズ、A220 を 50 機発注へ

ブレンデッド・ウィング・ボディ実験機を披露



飛行テストを 132 回、370 時間実施

シンガポール航空ショーに出展

エアバスは2月11日から16日までシンガポールのチャンギ・エキシビション・センターで開催されたシンガポール航空ショーに出展しました。

航空ショーの期間中には、エアバス機ファミリー最新のA350-1000や軍用輸送機A400M、最新鋭H160ヘリコプター、最新の地球観測衛星製品など

の模型展示を行いました。また、ハイブリッド電気飛行機「E-Fan X」やブレンデッド・ウィング・ボディの「マヴェリック」など、エアバスが幅広く研究実験に取り組むイノベーションプロジェクトも紹介しています。



製品の大型模型が展示されたエアバスのスタンド



地上展示を行ったマレーシア空軍のA400M

A220 プログラムの持株比率を引き上げ



658機の受注を獲得しているA220ファミリー

エアバスとケベック州政府、ボンバルディアはA220プログラムに関する保有株の変更を合意しました。ボンバルディアはエアバス・カナダ・リミテッド・パートナーシップ（エアバス・カナダ）の保有株をすべて、エアバスとケベック州政府に売却しました。これにより、エアバスはA220プログラムの事業会社であるエアバス・カナダの株式保有率が75%に、ケベック州政府は25%になります。

エアバスが2018年7月1日にA220プログラム事業の株式の過半数を取得してから同機の受注数は64%増加し、2020年1月時点で合計658機の受注を獲得しています。

スイス インターナショナル エアラインズの A320neo 初号機を納入

エアバスはスイス インターナショナル エアラインズに同社のA320neo初号機を独ハンブルクで引き渡しました。同社は合計25機のA320neoファミリーを発注しています。

単通路型機で最も幅の広い客室を備えるベストセラー機A320neoファミリーはA319neo、A320neo、A321neoの3機種で構成されます。新世代エンジンやシャークレットなど最新技術を取り入れることによって旧世代機と比較して燃費を20%削減します。2020年1月末時点でA320neoファミリーは世界中のおよそ110社から7,300機を超える受注を獲得し、約60%の市場シェアを保持します。



スイス インターナショナル エアラインズのA320neo初号機

セントレアの第4回航空ファンミーティングに参加



様々なエアバス機を紹介したエアバス・ジャパンの野坂ディレクター（左）と航空写真家のチャーリー古庄氏

エアバスは2月1日に中部国際空港が開催した「第4回航空ファンミーティング」に参加しました。2017年から毎年開催されているこの航空ファンミーティングは、飛行機好きの子どもから大人まで楽しめるイベントです。

エアバスはステージイベントに参加し、野坂孝博コミュニケーション・ディレクターが、イベントの監修協力者である航空写真家のチャーリー古庄氏と共に登壇。ビデオや写真を交えながら、最新鋭機A350 XWB や A380 の最新状況、エアバスが研究

開発に取り組む「空飛ぶクルマ」のプロジェクトなどを紹介しました。

イベント当日の2月1日に羽田-那覇線にA350-900の導入を開始したJALの話では、昨年引き渡された初号機の最終組立から型式証明取得までの様子を映像で紹介しています。ANAのA380については、初号機の製造の様子や引き渡しを控える3号機をビデオや画像で紹介。FLYING HONUの3号機は1月24日に独ハンブルクで塗装作業を完了し、オレンジ色のウミガメ親子が描かれた機体を披露しています。

これまで数多くのエアバス機を撮影してきたチャーリー古庄氏は、世界中からセントレアに就航している様々な航空会社が運航するA220やA320neo、A321neo、A330neo、A350の写真を次々と見せて、野坂ディレクターと興味深い話を繰り広げました。

今年の航空ファンミーティングは、ステージでのトークイベントの他、セントレアに就航している各航空会社によるブースでのグッズ販売や制服試着体験、紙ヒコーキ教室やクイズなどが開催され、飛行機好きの航空ファンのみならず、セントレアを利用する旅行者など6,000人以上の人々が来場し、盛況のうちに終了しました。

グリーン・アフリカ・エアウェイズ、A220を50機発注へ

ナイジェリアのラゴスを拠点とするグリーン・アフリカ・エアウェイズが、A220-300を50機発注する覚書（MoU）を締結しました。A220プログラムに対する大型発注で、アフリカ大陸の航空会社による発注において過去最大となります。

グリーン・アフリカ・エアウェイズの創設者兼最高経営責任者は次のように述べています。「アフリカ大陸からA220に対する過去最大数の発注をエアバスと共に発表することができ、誇りに思います。私たちは、起業家のような大胆さと戦略的に先を見通す分析力、空の移動の可能性をより良い未来につなげていくゆるぎない決意を持ってビジネスを作りあげていきます」

エアバスのクリスチャン・シェラー最高営業責任者（CCO）は次のように述べました。「情熱を持ってプロフェッショナルにビジネスに取り組むグリーン・アフリカ・エアウェイズとのパートナーシップをうれしく思います。同社は将来を見据えた最適な選択をしました。高い性能を備えたA220によって、これまで難しいと考えられていた目的地や路線を開拓することができるでしょう。同クラスの中で最も効

率的なA220と共に、グリーン・アフリカのビジネス発展に寄与できることを楽しみにしています」

A220は100-150席市場に対応する航空機で、比類ない燃費効率性と高い快適性を提供します。最先端の空力性能、最新材料、プラット・アンド・

ホイットニー社製PW1500Gギヤドターボファンエンジンを備え、旧世代機と比較して座席当たりの燃費を20%削減しています。二酸化炭素排出や騒音も大幅に抑えています。A220は大型の単通路型機と同等の性能を提供します。



A220を50機導入するグリーン・アフリカ・エアウェイズ

ブレンデッド・ウィング・ボディ実験機を披露



ブレンデッド・ウィング・ボディのスケールモデル実験機

エアバスは「ブレンデッド・ウィング・ボディ」のスケールモデル実験機、「マヴェリック」(MAVERIC: Model Aircraft for Validation and Experimentation of Robust Innovative Controls) を披露しました。

マヴェリックは、長さ2メートル、幅3.2メートル、表面面積約2.25平方メートルあり、革新的な機体設計により、既存の単通路型機と比較して燃費を最大20%を削減する可能性を備えます。また、ブレンデッド・ウィング・ボディの形状によって、推進システムや一体化設計、新たな空の旅を生み出す多様な客室において新しい可能性が開かれます。

マヴェリックは2017年にローンチし、2019年6月に初飛行を行いました。飛行試験キャンペーンは2020年第2四半期末まで実施します。

エアバスは技術力と製造能力の強みを生かし、様々なベンチャー、スタートアップ企業と緊密に協同することによって研究開発サイクルを促進してい

ます。これにより、エアバスは確かなスケールとスピードでコンセプトを実証することができ、技術の成熟度と価値をさらに高めることが可能になります。

エアバスの研究プログラム「Airbus UpNext」で

は、現在、E-FAN X (ハイブリッド電気飛行機)、や fello'fly (V字編隊飛行)、ATTOL (自動離着陸プロジェクト) など数多くの実験プロジェクトに取り組んでいます。



マヴェリックの機内

2020年1月末時点の受注・引き渡し・運航機数

機種	総受注機数	総引き渡し機数	運航機数
A220 / A318 / A319 / A320 / A321	16,180機	9,380機	8,921機
A300 / A310	816機	816機	303機
A330 / A340	2,200機	1,870機	1,678機
A350	935機	349機	349機
A380	251機	242機	240機
合計	20,382機	12,657機	11,491機